（別紙4）　　平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870400231		
法人名	医療法人浩悦会		
事業所名	グループホーム南風		
所在地	茨城県古河市坂間185－14		
自己評価作成日	平成23年7月25日	評価結果市町村受理日	平成23年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0870400231&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637－2
訪問調査日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの生活・時間を大切にし各々がしてきた事やできる事等を維持できるよう、活動に取り組んでいる。利用者、家族、関係機関、スタッフがコミュニケーションをしっかり図るように気をつけ、また、季節ごとのイベントやボランティアの訪問などを行い楽しみをもてるようにと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

入居者の介護度が軽度から中等度と比較的軽く、理想的なホームである。環境的には閑静で明るい場所にある。管理者が交代（開設当初からの職員）となり、新しい管理者と職員との協力関係は良好である。職員の定着率もよくチームワークのよさが利用者への対応に反映されている。ホーム全体が大家族を思わせる和やかな雰囲気であった。入居者が自然な形で過ごしやすいように個別性を大切にした介護が実践されている。地域密着という理念の実践では、地域の特性などから難しさを感じているが積極的な働きかけを行っている。現状に満足することなく、常に向上心を持って日々の仕事に携わっている姿勢を確認できた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員間で共有してをり、実践につなげている。新たに地域とのつながりを意識した理念を作り上げた	昨年の評価を受けて、独自の理念を職員みんなで考えて作成した。職員だけではなく、利用者とともに大切にするものとして、利用者に馴染みのある「隣組」の言葉を入れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ入会し地域の行事へ参加したり、散歩の際近隣の方とあいさつを交わすなどしている	自治会へ加入し、総会や、地域清掃活動にも利用者と一緒に参加している。正月のもちつき大会は楽しみのとつとなっている。散歩の時に挨拶を交わしながら、交流を深めている他、自治会長が協力的で、地域との連携について考えてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	インターンシップ、実習生の受け入れをしている認知症サポーター養成講座を行い地域への呼びかけをした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時期にあった話題を議題とし会議でいただいた意見などをまとめ活かしている	三か月に一回定期的に開催、近況報告を中心に意見交換を行う。家族が出席しやすいように敬老会とあわせて開催する工夫もしている。退去後の家族の参加もあり、体験談など貴重な話を聞くことができる。家族会は2年1回、ほぼ全員参加。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になっていただき協力関係を築いている	電話での相談や、市主催の研修会に参加しながら連携を図っている。運営推進会議の内容について相談をし、色々なアドバイスをもらいとても参考になるなど、良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置。家族に説明し同意を得て、拘束のない生活を送れるようにしている。やむを得ず行なう場合は家族に説明し同意を得ている	身体拘束について職員は十分に理解している。転落の危険があり、やむを得ず家族に相談して、サイドレールを使用した例があり、了解事項として書面に残してある。常に拘束をしない介護を意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会を設置。勉強会や研修の報告で虐待に関してスタッフも深く周知している施設を外部にオープンにし、施設の様子が分かるような環境作りに努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様に遺言を作成する機会があり、制度について話し合い考える機会がもてた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章化したものを提示し読み上げ、さらに納得の有無も確認し充分に行なえていると思う		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションを多く図り意見の出しやすい環境づくりを心がけている。意見箱を設置している	家族の面会時に、日頃の様子を伝えながら聞き出す。家族から習い事を続けたいというご本人の意向を聞き、継続できた例がある。意見に対して対応可能なものは出来るだけ反映するように努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行い意見を聞き取り入れるようにしている。また随時個々に意見や話を聞くようにしている	全体会議では、入居者について（ケースカンファレンス）、業務に関すること、行事の打ち合わせなどについて話し合う。必要なものは緊急性も考慮しながら対応していく。会議以外でも随時出された意見は検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、実績等の定量評価を行なっておらず,又、労働環境の定量評価も定まっていないため、客観的基準の設定を検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、可能な限り受講し不定期ながら、内部勉強会を行い、認知症研修を定期的に行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学、推進会議への参加をいただきネットワークづくりをしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望、不安、楽しみその他を本人や家族に聞き誠心誠意、信頼されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションを多くとりご家族の思い、考えをゆっくりしっかりと聞きとるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私達が知りうる情報を全て提供し、話しあったもとでサービス利用を決定している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築き家族の一員として生活できるように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の考えや思いを聞き、ご本人と家族の絆・一緒に過ごす時間を大切にしてもらえるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や関係者の協力を得てできる限り行なっている。友人の面会、習い事の継続、家族や友人との外出	入居者の友人がクリニック受診しながら面会にくる事がある。また、眼科受診に出掛けたついでに自宅に寄って来る人もいる。墓参りしたり、家族との外出も自由で、旅行に行ってくる人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の気分でトラブルもあるが、一緒に活動をし協力し合えるような機会をつくっている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に案内や相談を受けさせて頂いている。退去されたご家族に推進会議に参加していただきコミュニケーションを図っている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや以降の把握は充分にアセスメントを行なっている。ご家族から分かる限りのご本人の情報を聞かせていただき、日頃からコミュニケーションを多く図るようにしている	コミュニケーションの中で表情で読み取る。毎日の会話で、返答が返ってこなかったら、必ず声のかけ方を工夫しながらご本人の意向を確認している。「家に帰りたいと思っている人に、ホームでどう過ごしたいかを聞くには迷いがある」と話され、個別性を大切にした介護を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係各所、あらゆる情報機関より情報提供をいただけるようにしている。生活歴シートも作成している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションから心身の状態観察を行い、その時々の状況に合わせ対応している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、担当者会議で意見を出し合い計画をたてている	ICFとセンター方式で丁寧なアセスメントを行い、三か月に一回担当者会議でモニタリングを行う。ケアプランとの連動した介護記録の工夫がなされ、入居者の生活の様子がわかりやすく記録されていた。管理者、職員ともによりよい記録の方法について思考錯誤を繰り返している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別表に記入し、常にスタッフ間で情報提供し本人に必要な計画をその都度見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りの柔軟性は心がけているが、多機能とはいえるまでではない		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用しての生活は責任の所在に難しさがあると思われる。理想では豊かなくらしをと思う気持ちはあるが、難しいと思われる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を第一に考え納得のいく方法で支援している	入居と同時にホームの経営母体のクリニックを主治医にする人が多いが、眼科、歯科等の専門外来は家族が付き添う。緊急時は近くの病院で対応してもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があった場合等を含め日常的に状況報告を行い、受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリーを作成し、情報提供を行なっている。入院中もまめに家族と連絡を取り合い、退院後の不安等の軽減を努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族への方針説明を行う。本人や家族・関係者との話し合いを行なっている。看取りについてのアンケートもとっている	看取りを行う方針を打ち出し、夜間時の不安への対応として、職員の体制を整えたり、マニュアルの整備を行った。直接医師へ連絡出来ることも不安解消になっている。契約時に説明したうえで十分に話し合う。最近では、本人と姪夫婦との間で、遺言書を作る機会があり、終末期について考えるいい経験になった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが対応については実践で身についている。スタッフは救命講習を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理の下、全職員が訓練を経験できるようにし、年2回の避難訓練を実施。近隣の方への協力依頼書を作成し署名をいただいている	今年の震災を経験し、細かな部分を見直した。備蓄に関しては上司に相談しながら、停電に対する備えを加えた。まだ通信手段などの問題も残っているが地域の方も巻き込んで考えて行きたい。	防災に関する意識は高く、昨年の課題をクリアしたが、震災の体験を細かく検証し改善の方向に努力している様子が見受けられる。更に行政を巻き込んで、地域全体で防災計画を考えることで、地域での役割等が明確になり、地域密着の理念に近付ける事を期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けや、『ありがとう』などの感謝の気持ちを伝えたりと各々の人格や思いを尊重して接している	年数の長いスタッフとの慣れ合いに注意している。トイレ誘導の際は羞恥心に配慮した言葉かけをする。写真についても平等に映るよう、特にホームで発行しているおたよりには気を使う。職員の言葉に限らず、入居者の言葉も大切にしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意志を表現しやすいように声掛けをしたり関わるよう心がけている．問いかけ、提案など表現しやすい環境づくりをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースをできる限り大切に実践につなげるようにしているが、スタッフの人手不足や他者との関係などから本人の思い通りに支援できないこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装ができずさりげなく支援しているが、ご本人の強い意志もあり難しさを感じている。本人の好みを聞いたり、おしゃれを楽しめるような声掛けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、食事の準備(食材切り、盛り付け、配膳など)を一緒に行なっている。その都度、利用者の状況に合わせて分担して行なっている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。買い物もいっしょに出掛け、帰りにおやつを買う事もある。月一回外食やおやつ作りを楽しむ。台所の中で生き生きと調理する姿や、職員と一緒に盛り付ける姿やテーブルに運ぶ姿、入居者を気遣う姿など和やかな様子がうかがわれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は個々に観察記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各々のできることに合わせ、声掛け誘導見守り、環境づくりを行なっている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録、把握し必要に応じてトイレで排泄できるように声掛け、誘導をしている	日中は全員トイレで排泄しているが、声掛け誘導で失禁はない。行動の様子から排泄のサインを読み取れる場合が多い。夜間帯はおむつ対応もあり、行ける人はトイレ誘導する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、種類・味に工夫をしている。体を動かすことを日常の中でうながしている。状況に応じ下剤を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	24時間対応はスタッフの人員などからリスクも高く難しいが、なるべく個々に合わせた支援を行なっている	本人の入りたい時間に、一階、二階交互に入浴している。入浴拒否されたら、時間帯をずらして気分が乗った頃を見計らって、声かけ方を工夫しながら誘う。ゆず湯など季節を楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々が居室やソファー、それぞれの場所でゆったりする時間を大切にしている。安眠へつながるよう、見守りや声掛けを各々に対応し、スタッフ間でも話し合いをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携を図り副作用や用法について情報を頂き、一目で分かるよう一覧表を作成している。また、薬が変わった時もその都度スタッフに説明をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が役割を持ち、可能な限り楽しみや気分転換ができるよう、支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の方ではないが、家族や関係者の方々と相談し協力しながら外出支援を行なっている。買い物などはその都度出かけられるようにしている	散歩はホーム周辺を日常的に行っている。バスをレンタルして、家族も一緒に少し遠方の千葉へ花見に行ったこともある。今年は震災の影響で、近場での花見となり、近くの福祉の森のイベントに参加しながらお出かけを楽しんだ。ホームのベランダや玄関先などいつでも外気浴出来る環境である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際はご自身で支払いをしていただくよう支援しているが、トラブル発生の可能性も大きく現金の自己管理は基本控えていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の状況に合わせご家族からの手紙や電話を取り次いでいる。家族間の問題もある為、相談しながら行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、季節に合わせた掲示物を一緒に作成し飾っている。入居者が心地良く過ごせるよう努めている	日当りが良く、ゆったりくつろげるソファーや畳の部屋などがあり、家族が提供してくれたものを廊下に飾っている。イベントの写真掲示（フラメンコ、楽器演奏）もホームでの様子を物語っている。玄関には家族が作った干支の水彩画が飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんそれぞれ自由に集まってきて、一人一人思い思いの場所で過ごしているので自然に出来ていると感じている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら行なっている。使い慣れたものや好きな物（置物や植木など）を置いている	昔から使っていた鏡台を置いたり、好みの植木鉢を置くなど、思い思いにレイアウトしている。壁には自分で作ったものを飾ったり、家族の作品を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどの場所を大きくしたり分かりやすいように表記している。いつ、どこでも事故が起こり得る事を念頭に置き、なるべく危険な物がないようにしている		

（別紙4（2））

事業所名　グループホーム南風

作成日：平成　23　年　11　月　16　日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	行政を含めた地域全体で防災計画を考え、地域での役割を明確にする。	地域や行政をまじえた避難訓練を実施する	行政の方、地域の消防団の方、近隣の方に声掛けをしていき運営推進会議などにもご参加いただきまずは、取り組みなどを知っていただく。そして、地域全体での避難訓練につなげていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。